

作業療法と音楽

Occupational Therapy and Music



*Hiroshi Yamane ; OTR, PhD
Human Health Science
Graduate School of Medicine, Kyoto University*



治療パラダイムの変遷

全人的治療

〔 プライマリ・セラピー
ナラティブ・セラピー

専門分化の問題への対処としての再統合

身体医学的治療

〔 薬物療法 (物質的介入)
大身体療法 (外科的介入)
運動療法 (動作的介入)

心身二元論を基盤とし疾患と身体を対象に専門分化したもの

心理社会的治療

〔 認知行動療法
作業療法, 生活技能訓練
精神療法, カウンセリング
心理教育, 家族療法
モラルトリートメント

経験から得られた原初的な全人的処置から生まれたもの

自然的治療

〔 ホメオパシー (類似療法)
養生訓
健康訓

原初的な全人的処置

超自然的治療

〔 加持祈祷
霊媒 (シャーマン)
悪魔払い

主観と客観

主観とは、対象に対する認識・行為・評価などを行う意識のはたらきをいう。一般に、個別的な心理学的自我と同一視されるが、認識論(Immanuel Kant)では個別的内容を超えた超個人的な形式として、主観（超越論的主観）を客観的認識を可能にするものとしている。

すなわち、Michael Polanyi が『暗黙知の次元』で述べた、「われわれは、語ることができるより多くのことを知ることができる」と述べたように、多くの思考と経験の中で、自然科学的数値化による客観的説明ができない多くの真実を知っており、すぐれた主観（超越論的主観）は、もっとも客観的事実に基づいた普遍的判断になるという考えである。

プライマリとナラティブ

プライマリ・セラピー(primary therapy)

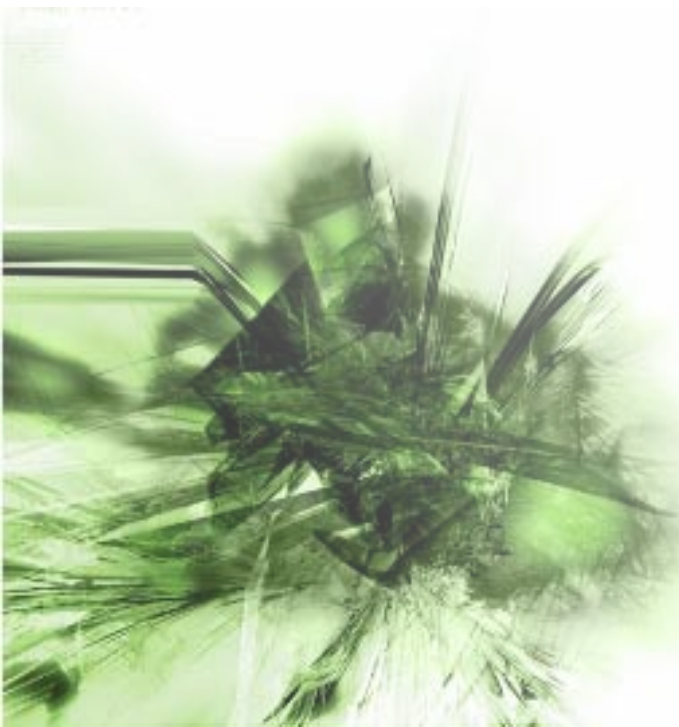
専門医に対する家庭医のように患者の全体を把握し処置する意味から生まれ、疾患や身体の機能・構造ではなく、患者を一人の人間として全人的にとらえ、治療や援助をその個人のニーズに応じて行う療法をいう。

ナラティブ・セラピー(narrative therapy)

これまでどのように生活し、今どのように過ごし、これからどのように暮らしたいのか、何に困り、何を思っているのか、そのライフストーリーに寄りそい、医学的知識と技術を持って生活の再建を援助する療法をいう。

作業療法は、生活機能に障害がある人に対し、もちいる作業や治療形態を、対象者の病状や障害の程度、回復状態、興味・関心、治療・援助目的に応じて組み替え、使い分けながら、急性期の病状安定から生活支援まで、一貫した治療・援助を行うシステムプログラムである。作業療法では活動の一つとして、音やリズムなどの音楽の要素と創作・表現活動としての音楽の特性をもちいる。作業療法の概要と、作業療法で音楽をどのようにとらえているのか、作業分析の視点から、音楽の表現様式、音楽の起源、作業療法における利用と効用について紹介する。

作業を用いる療法 Occupational Therapy



ひとの一日は
さまざまな作業の営み
その積みかさねで
その人の生活や人生が
織物のように紡がれる

思わぬ病い
心身の障害は
作業の営みの障害となり
生活の紡ぎのほころびとなる
ひとにとって病いや障害とは
作業のいとなみの障害
生活の紡ぎのほころび

失い損なわれた日々の営み
その再びの試みが
ほころびを繕い
新たな人生を紡ぎなおす

「作業療法の詩」より



人間の一日は、さまざまな作業によって成り立っている。

病いや障害は、生活という視点からみれば、原因が何であれ、生活における作業の障害



作業療法における介入手段

生活を構成するすべての営みを介入手段（作業）とする

生活維持活動



身辺処理
生活管理

仕事活動



職業 学業 家事 育児

遊び・余暇活動



原初的遊び 余暇
社会的活動

社会生活関連活動



移動 情報伝達

休養・熟成



精神・身体的消化と再生産

作業療法における介入手段

生活維持に関連する活動ーいきる・くらす

身辺処理	日々生きるのに必要な身のまわりの処理
生活管理	暮らしに必要な物や事の管理

仕事に関連する活動ーはたらく・うむ

職業的活動	生計をたててゆくために日常従事する活動
学業	将来生計をたててゆくために必要な活動
家事	家庭内のくらしに関するいろいろな仕事
育児	乳幼児を養い育てることに関する活動

遊び・余暇に関連する活動ーあそぶ・つくる・たのしむ

原初的遊び	発達過程にみられる子どもの自然な遊び
余暇活動	仕事・労働に対比しゆとりを回復する活動
社会的活動	自由意志に支えられた社会生活における活動

社会生活に関連する活動ーつながる・ひろがる

生活拡大	移動機器，交通機関の利用，公共機関など社会資源の利用……
情報伝達	電話，電子メール，その他コミュニケーション活動……

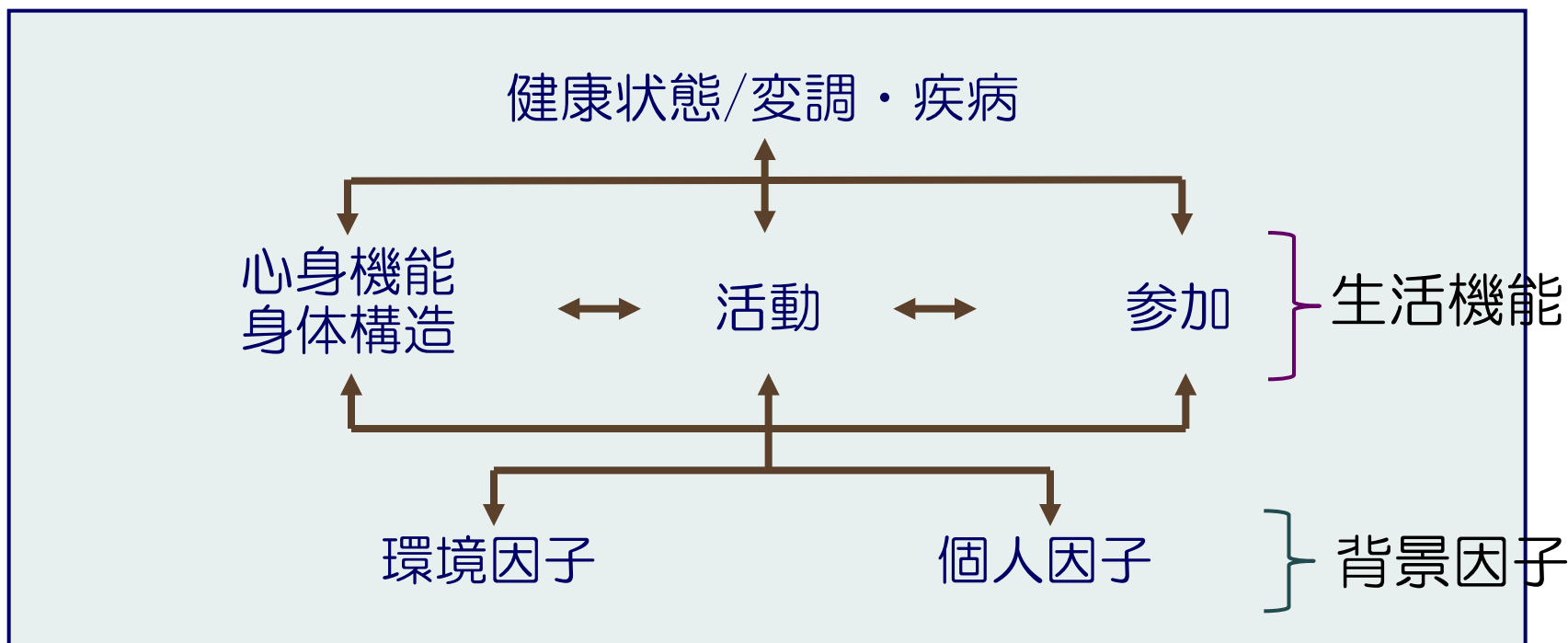
休養・熟成（やすむ）

休養	生理的，精神的にエネルギーを補充する
熟成	身体的，精神的に取り入れたものを消化，吸収，熟成する

作業療法と対象

人の健康状態を生活機能と背景因子の相互性で捉える

International Classification of Functioning, Disability and Health ; WHO 2001



medical model 医学モデル
social model 社会モデル

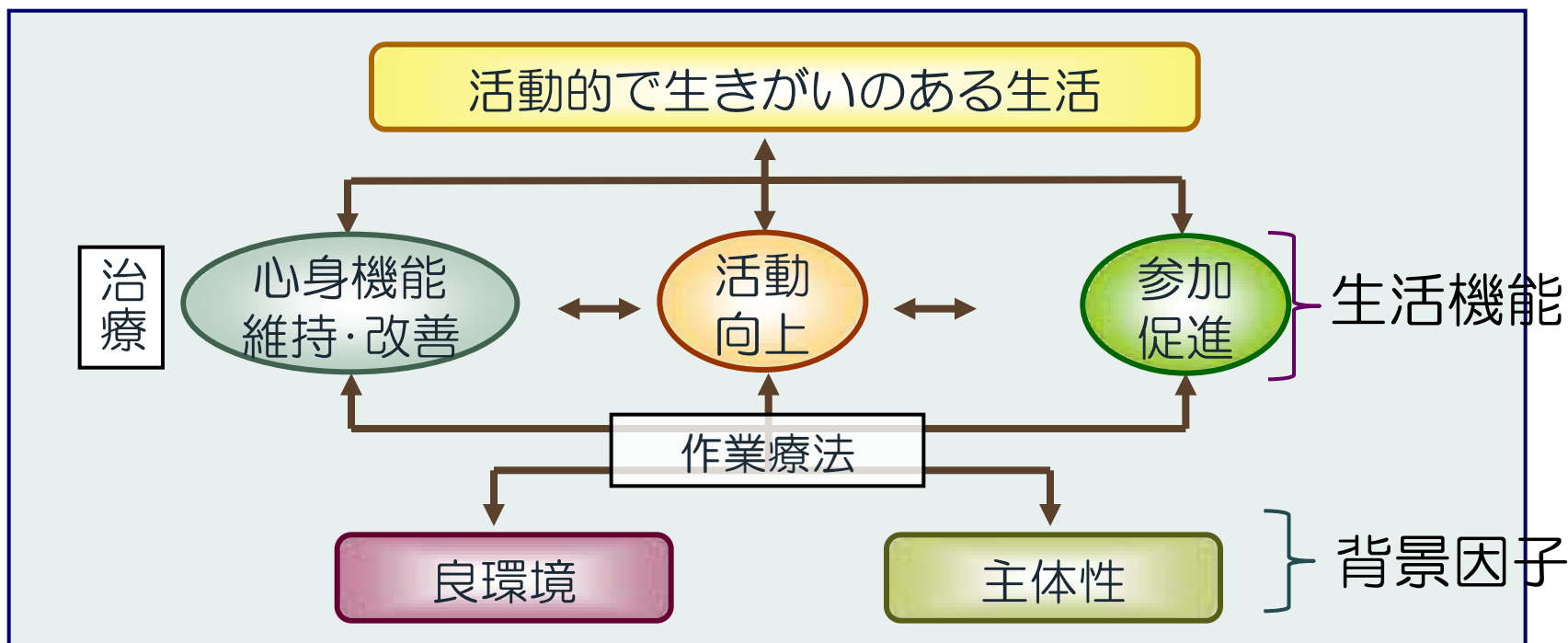


bio-psycho-social model
生物心理社会的モデル

作業療法と対象

人の健康状態を生活機能と背景因子の相互性で捉える

International Classification of Functioning, Disability and Health ; WHO 2001



medical model 医学モデル
social model 社会モデル



bio-psycho-social model
生物心理社会的モデル

作業療法の役割

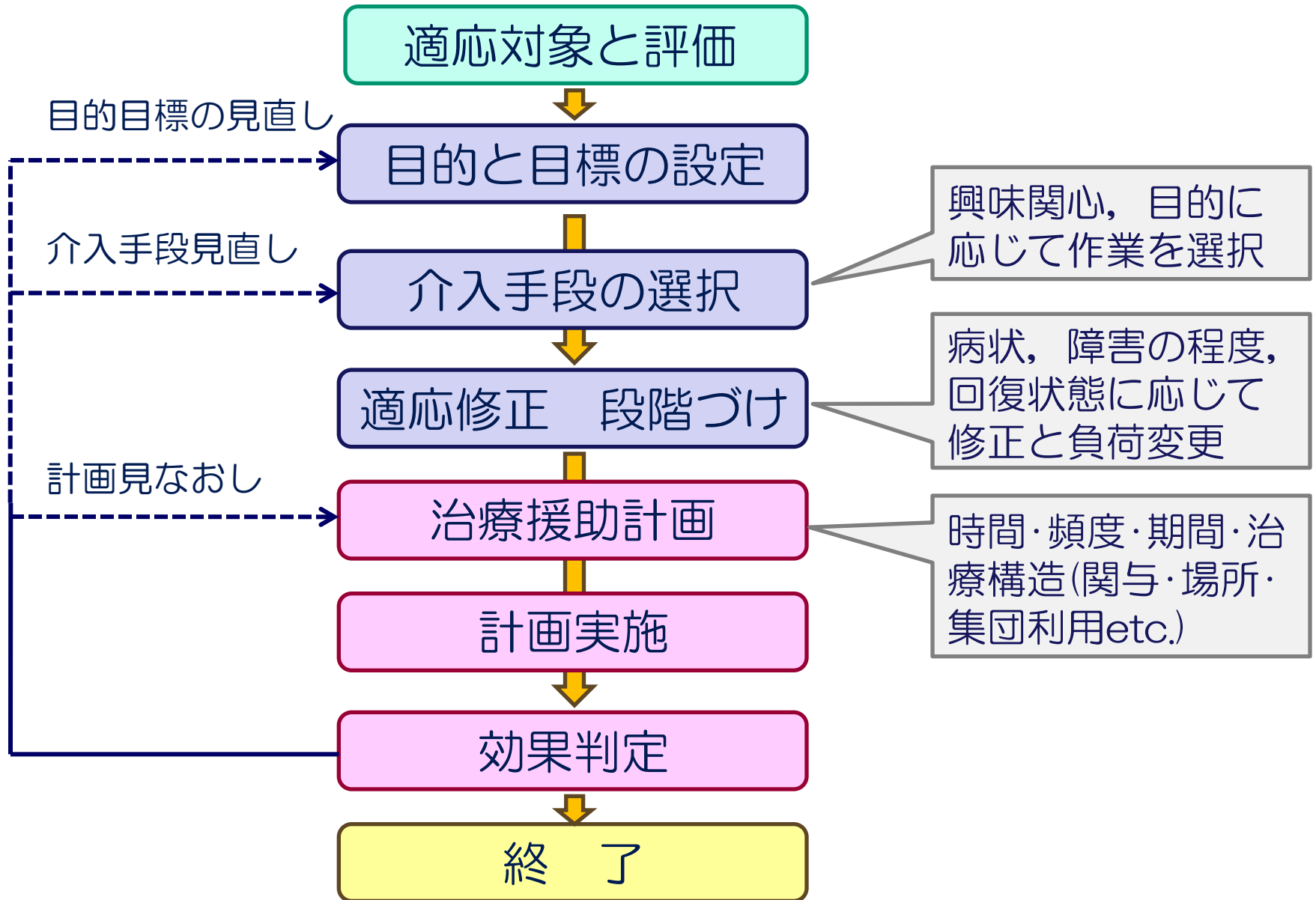
人の健康状態を生活機能と背景因子の相互性で捉え

生活を構成するさまざまな作業を手段に
人とその生活機能をアセスメントし
生活機能に障害があっても
生活に必要な作業ができるよう援助する



生活の自律と適応の援助

作業療法の手順



作業療法の特徴

急性期の病状安定から，社会生活に必要な技能の習得，再燃再発の防止と生活支援まで，一貫した治療援助を行う，システムプログラムが作療療法の特徴

作業療法の治療機序

- 身体図式や脳地図の修正
- 感覚運動機能, 精神認知機能の改善
- ニューラルネットワークの強化・形成

心身機能
維持改善

↓

身体との関係性の回復

↓

回復した心身の統合機能をもちいた
生活の再建, 社会参加の促進

活動向上
参加促進

神経心理学レベルから生活にいたる, 作業を介した
生活機能の改善 → 生活の自律と適応の援助

作業療法における音楽

Music in Occupational Therapy



表現様式の特徴と音楽

無意識的行動

意識的行動



身体による表現

ジェスチャーなど手による表現

絵など視覚的表現

音・リズム・音楽による表現

言語表現

ノンバーバル



知性化

客観化



バーバル

舞 踏

造形・描画

文 学

音 楽

音楽の起源

ひとと音楽

喜びに 歌い

喜びを 奏で

悲しみに 聴き

悲しみを 詩う

ささやきを弾き

ほとばしりを弾く

想い 祈り 願いが

音と旋律にのり

ことばを超え

時空を超える

「作業療法の詩」より



音楽の起源

芸術としての音楽
娯楽・芸能としての音楽
労働にともなう音楽
宗教における音楽



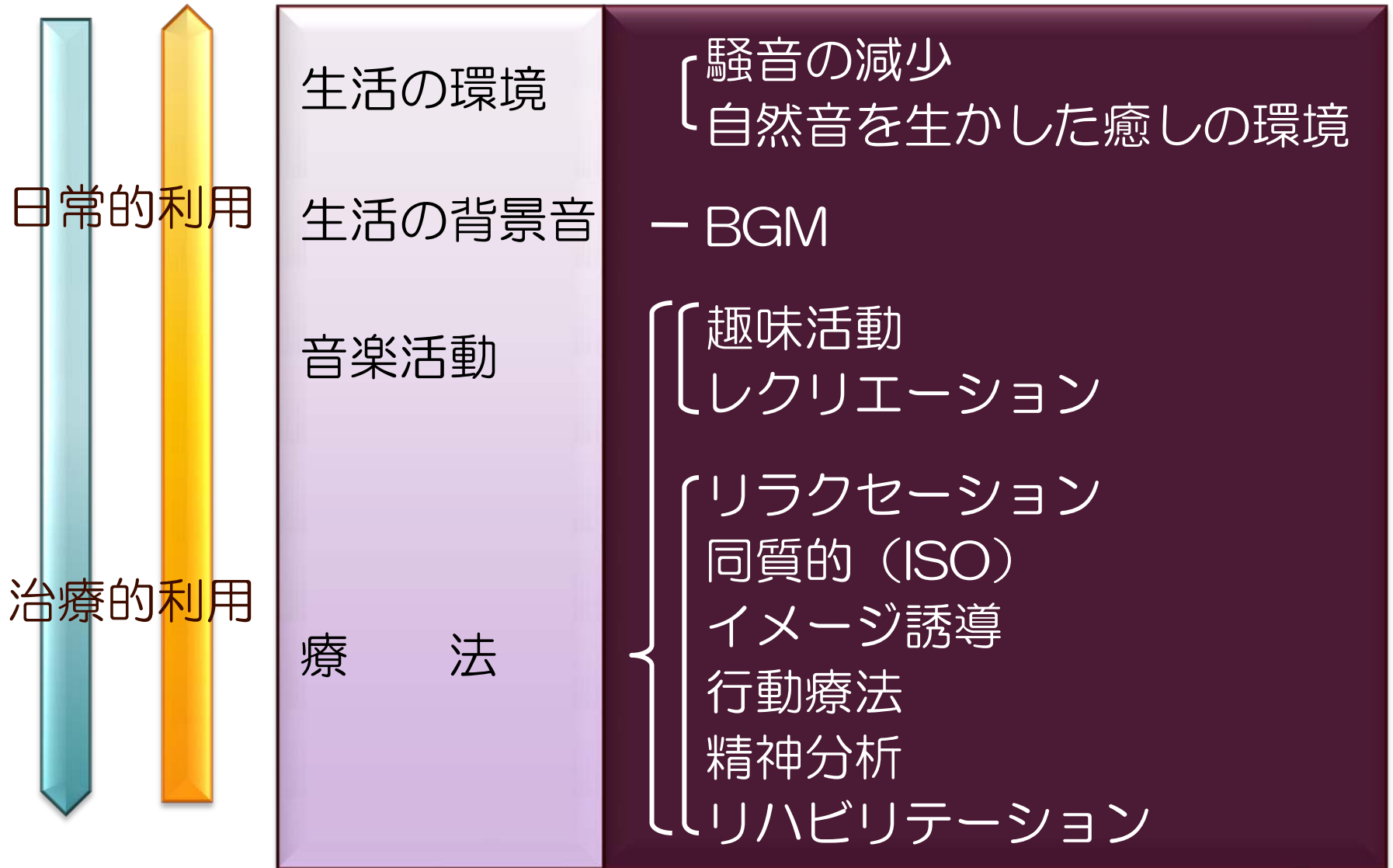
情動表出 願い・祈り 意思伝達

怒り 恐れ 喜び 哀しみ 思い

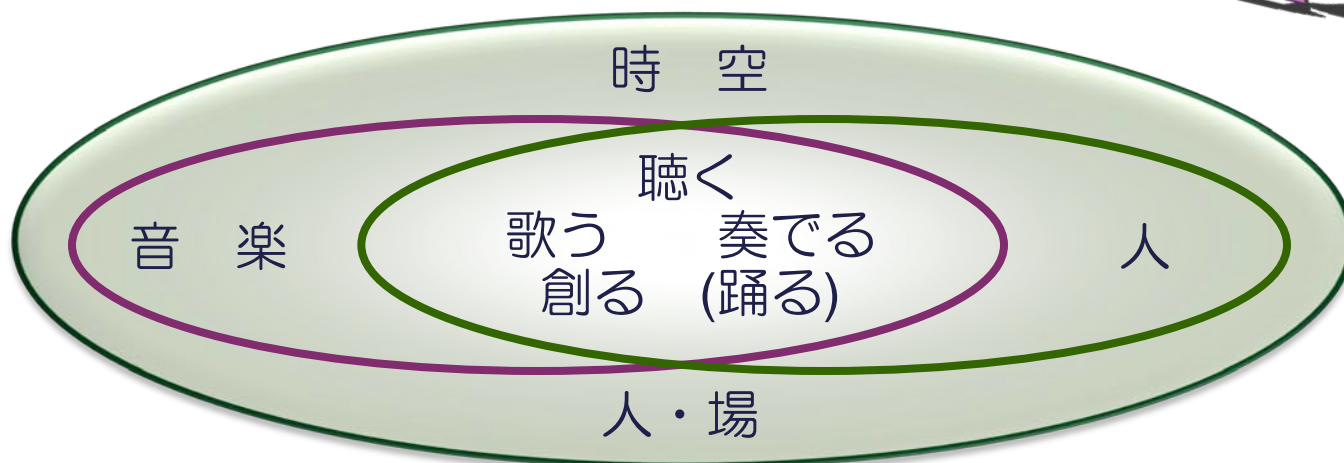


音楽は本来 ひとの暮らしの苦しみをやわらげ
祈りを助け その中に喜びを生みだすもの

音と音楽の利用



音楽の治療的利用



音楽により，侵襲性の少ない治療を行い，そしてふたたび医療の場から生活の場へと，音楽により導く

それは，音楽を聴き，歌い，奏で，創り，楽しむことを中心に，音やリズム，音楽に関連する諸活動を通して，病めるところを癒し，身体や精神機能の維持・回復，生活の質の向上をはかること

作業療法でどのように使ってきたか



身体療法

精神療法

精神科リハビリテーション

活動療法

表現療法

神経生理学的利用

イメージ

リラクゼーション

回想

レクリエーション

ダンスセラピー

芸術療法

音と音楽の利用

環境 { 心理的効用 心地よい音空間
物理的効用 音による音の制御

感覚運動 (別表)

精神認知 (別表)

心理社会 { コミュニケーション手段としての音・音声
生活リズム (1日, 1週間, 1年, 季節)
連携 凝集性 一体化 ……

音と音楽の利用：感覚運動機能の維持・改善

感覚機能の改善

聴覚と前庭機能の改善

固有覚機能の改善

音声と発話機能の改善

音声，構音，流暢性，リズム

自律神経系の賦活

循環器系の機能の維持・改善

血圧の安定，全身持久力，呼吸機能， etc.

神経筋骨格と運動機能の維持・改善

→筋骨格構造，関節可動域

→姿勢保持，歩行，巧緻動作，目的動作の協応性



音と音楽の利用：精神認知の維持・改善

全般的精神機能の改善

→意識，見当識，意欲，知的機能， etc.

個別的な精神機能の改善

→注意，記憶，精神運動機能，知覚，思考， etc.

→情動のコントロール

→高次認知機能の賦活・改善

→言語に関する精神機能

統合的精神認知機能の改善

→適度な鎮静と賦活，不安・痛み・疲労の軽減

→情動の適応的発散（カタルシス，発散，気分転換）

→自己愛・基本的欲求の充足，自我開放

→普遍的体験，回想と希望

→達成感，有用感・有能感の充足，自信の回復

→自己能力の現実検討，自己認識，自己概念の育成

→身体自我の強化，身体図式の形成



おんがく

音と リズムと 響き

重なり合って

高ぶる気持ちを静め

鬱ぐ気持ちを包み

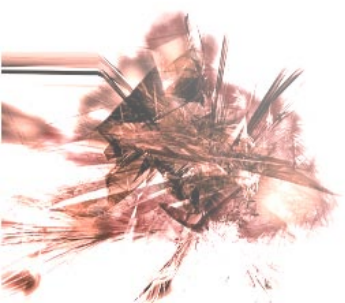
悲しみを

喜びを

ことばにならない気持ちを

表し伝える

「作業療法の詩」より



音楽への期待



生活の自律と適応を目的とするシステムプログラムは、音楽療法士のように特定の作業種目に対する専門的知識や技術を有している職種とのチームアプローチによってより充実する

